

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「富士市の将来」・「自治会・地域コミュニティ活動」について、市民の意識・評価・要望などを把握することを目的とした。

2 調査の内容

「富士市の将来」・「自治会・地域コミュニティ活動」について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 富士市全域
- (2) 調査対象 富士市在住の満20歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査
- (6) 調査期間 平成20年6月13日～6月27日
- (7) 調査機関 (株)サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

- (1) 発送数 3,000人 (100.0%)
- (2) 回収数 1,795人 (59.8%)
- (3) 有効回収数 1,791人 (59.7%)

有効回収数は、回収したが記入のない(または少ない)調査票を除いて集計した数。

報告書を読む際の注意事項

- 1 比率はすべて百分比であらわし、小数点以下第2位を四捨五入している。このため百分比の合計が100%にならないことがある。
- 2 基数となるべき調査数は、Nまたは調査数と表示しており、回答比率はこれを100%として算出した。
- 3 質問の終わりに(M. A.)とあるのは、一人の対象者が2つ以上の回答をしてもよい設問であり、その百分比の合計は100%を超える場合がある。
(M. A. = Multiple Answerの略)
- 4 分析の軸として用いたライフステージは、次のように分類している。

独身期	20～30代の未婚者
家族形成期	第一子が未就学児、または40歳未満の夫婦のみ
家族成長前期	第一子が小・中学生
家族成長後期	第一子が高校・大学生 (大学生・短大生・専門学校生・浪人生を含む)
家族成熟期	第一子が学校教育終了
老齢期	60歳以上の人

家族形成期～家族成熟期の子どもがいる人は、いずれも60歳未満の人とした。40代・50代の未婚者、40代・50代の夫婦のみなど、分類されていない層がある。

5 この調査は、等間隔抽出法により対象者を抽出したので、標本誤差は次式で近似できる。

$$= 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

：標本誤差
n：標本の大きさ
P：回答比率

回答者総数（1,791人）を100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が50%である
とすると、母集団（20歳以上の富士市民全体）の回答比率は47.6%～52.4%の間であると推定さ
れる。

回答比率	標本誤差
50%	±2.4%
60%または40%	±2.3%
70%または30%	±2.2%
80%または20%	±1.9%
90%または10%	±1.4%